

第1回水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会

議 事 次 第

日時 平成21年5月25日(月)13:00~15:30

場所 国土交通省土地・水資源局局議室
(中央合同庁舎第2号館11階)

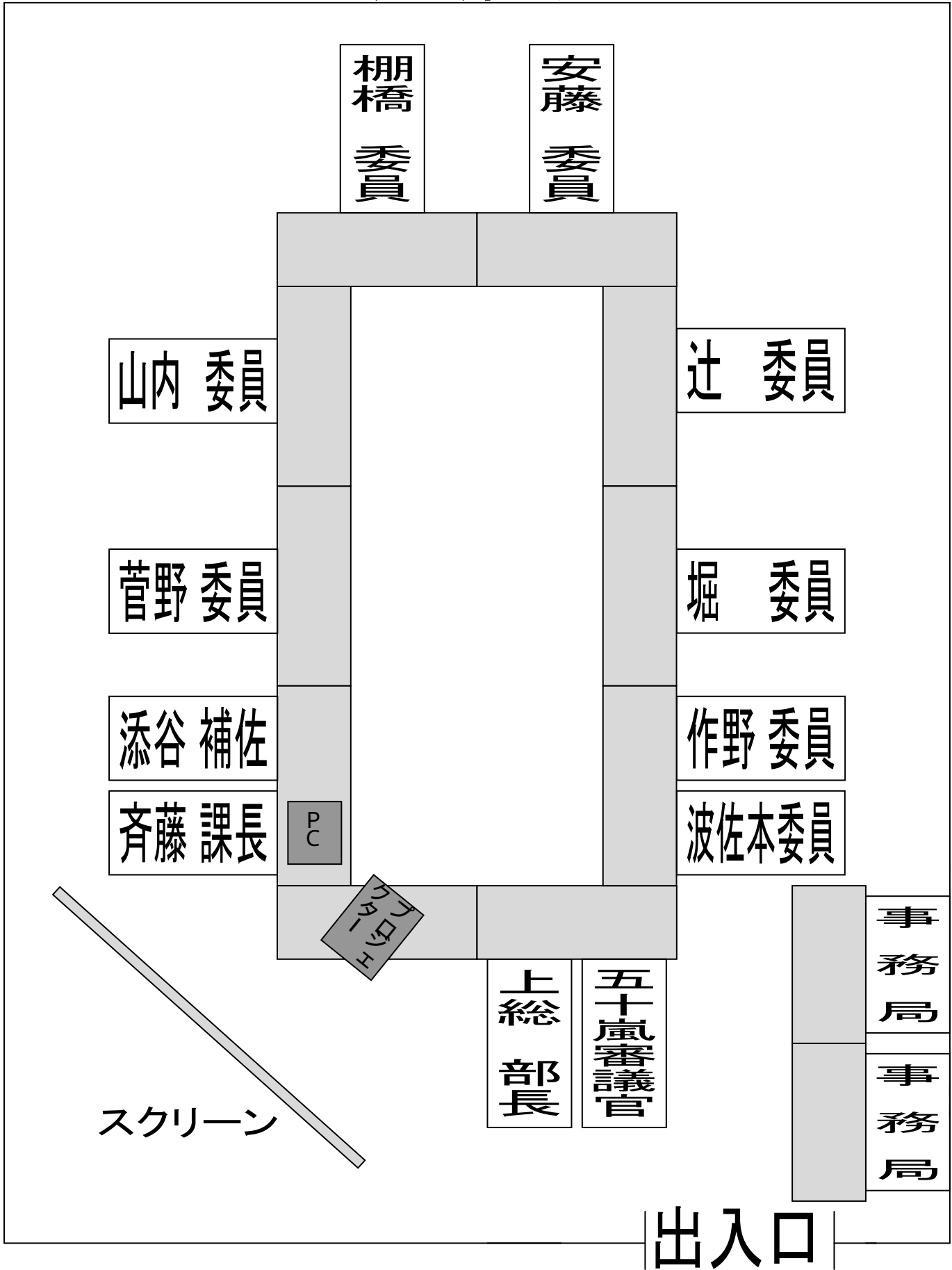
1. 開 会
2. 水資源部長の挨拶
3. 座長の選出
4. 事務局からの説明
 - (1) 水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会の設置について
 - (2) 水源地域(水の里)の共同プロモーションに関連する参考事例等
5. 意見交換
6. 閉 会

【配付資料】

- 資料1 座席表
- 資料2 水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会 委員名簿
- 資料3 水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会の設置について
- 資料4 水源地域(水の里)の共同プロモーションに関連する参考事例等

座席表

資料1



水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会 委員名簿

【敬称略；五十音順】

- 安藤周治 NPO 法人ひろしまね理事長
- 菅野典雄 福島県飯舘村長
- 作野広和 島根大学教育学部准教授
- 高橋 充 株式会社南信州観光公社専務取締役〔所要のためご欠席〕
- 棚橋通雄 財団法人ダム水源地環境整備センター理事
- 辻 一幸 ダム・発電関係市町村全国協議会会長（山梨県早川町長）
- 波佐本由香 株式会社 HAKKL 代表取締役
- 堀 繁 東京大学アジア生物資源環境研究センター教授
- 山内 彪 財団法人吉野川水源地域対策基金（全国水源地域対策基金協議会事務局）理事

委員の互選により本検討会に座長を置く。

水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会の設置について

水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会の設置について

1

趣旨

水源地域は、水源を支える水の里として、日本のふるさとの原風景を遺す地域として、保全が不可欠
過疎化、高齢化が進む中で、地域社会が疲弊し、早急な対策が必要

水源地域の保全と自立のためには、住民の生活の糧になる地域の製品の販売促進や観光客の誘致が必要
生産規模が小さい、マストツーリズムに適さない、物流コストが高い等山間地域特有のハンディ
人材、ノウハウ、資金等が十分でないために、ブランドづくりやプロモーションが思うようにできない

以上のことから、全国の水源地域が連携し、共同でプロモーションに取り組んではどうか
相乗効果により総体としての訴求力を高めることができるのではないか
プロモーションのコストを低減することができるのではないか

社会貢献意識の高まりを踏まえ、水源地域ならではの特色と魅力を最大限に活かす戦略が重要
「日本の水の里の自立を応援し、守る」という産地応援型、社会貢献参加型の購買行動を誘導するためのメッセージの訴求

以上の趣旨から、水源地域の特産品や観光資源を磨き、推奨し、訴求するための共同プロモーションの戦略と方策を
具体的に検討するための検討会を設置

水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会の設置について

2

検討課題

水源地域の特色と魅力を活かした保全と活性化のための戦略
水源地域を売り出すための障害(ネック)となっている課題
その課題を解決するために必要な取組
水源地域に社会や消費者の関心と応援を喚起、誘導するための方策
水源地域の取組をバックアップするために必要な取組

3

スケジュール

5月25日(月): 第1回検討会及び第1回専門委員会の開催
来年3月: 報告書のとりまとめ

	H21/5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22/1月	2月	3月
検討会											
専門委員会											

5月、10月、3月は同日開催

水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会の設置について

4

検討体制

検討会に委員の互選により座長を置く。
検討会の下に専門委員会を設置し、委員の互選により幹事を置く。
事務局を水源地域対策課に置く。

【検討会委員:敬称略、五十音順】

安藤周治 NPO法人ひろしまね理事長
菅野典雄 福島県飯舘村長
作野広和 島根大学教育学部准教授
高橋 充 株式会社南信州観光公社専務取締役
棚橋通雄 財団法人ダム水源地環境整備センター理事
辻 一幸 ダム・発電関係市町村全国協議会会長(山梨県早川町長)
波佐本由香 株式会社HAKKL代表取締役
堀 繁 東京大学アジア生物資源環境研究センター教授
山内 彪 財団法人吉野川水源地域対策基金(全国水源地域対策基金協議会事務局)理事

【専門委員会委員:敬称略、五十音順】

安西 裕 湯西川温泉流域活性化センター長
榎並利博 株式会社富士通総研プリンシパルコンサルタント
梶間谷允 財団法人利根川・荒川水源地域対策基金事務局長
上谷昌史 財団法人ダム水源地環境整備センター企画部長兼調査第一部長
作野広和 島根大学教育学部准教授
菅原 力 全国町村会経済農林部副部長
波佐本由香 株式会社HAKKL代表取締役

水源地域(水の里)の共同プロモーションに関する検討会の設置について

5 共同プロモーションに関連する論点とアイデア

社会や消費者の関心と応援を喚起、誘導するための基本的なストーリー

- ・ 水源地域(水の里)を保全し、未来に継承していくことの意義、必要性、緊急性の訴求。

日本の水源地域(水の里)の魅力を丸ごとブランド化

- ・ 水源地域(水の里)全体のイメージの底上げのための統一ブランド(マスターブランド)の構築。

隠れた特産品、埋もれた観光資源を発掘し、磨く手助けをする「水の里プロモーター」の派遣

- ・ 商品開発、ブランド化、プロモーションの助言をする「水の里プロモーター」(バイヤー、流通関係者等に委託)を派遣。

推奨ラベル「水の恵みマーク」による産地応援型購買行動の誘導

- ・ 水源地域から推薦のあった特産品、観光商品を評価、選定し、推奨ラベル「水の恵みマーク」を交付。

認定ラベル「水の里貢献マーク」による社会貢献参加型購買行動の誘導

- ・ 売上金の一部を「水の里基金」(水源地域の取組を支援するための基金)に寄付することを宣言した商品を「水の里貢献商品」として認定し、認定ラベル「水の里貢献マーク」を交付。

「水の里ポータル」による共同プロモーションの推進

- ・ 共同プロモーション事業全体のプラットフォームとなるポータルサイトの構築。

街中の広告塔としての「ブループレート(緑提灯の水版)」運動の展開

- ・ 推奨商品、認定商品を取り扱い、水源地域(水の里)のプロモーションに協賛するレストラン、旅行代理店等に「ブループレート」を交付。